

まつぼっくり

学校教育目標「支え合い・学び合い、多様な達成感を体感し、ふるさとを愛する児童の育成」



宇城市立三角小学校
学校だより 第18号
文責 校長 西村羊治
令和7年5月29日

だいすき！

5月28日（水）の給食のメニューは、「麦ご飯、とり肉と春野菜のカレー、フルーツヨーグルトゼリー、牛乳」でした。私は検食（給食の事前の確認）を終え、各教室に向かいました。1年生から6年生まで笑顔でおいしそうに各先生方と一緒に給食を食べていました。私はそれ

2年生



ぞれのクラスのみんなに次のような質問をしました。「カレー好きな人？」と、するとどのクラスも予想以上に手が上がりました。また、麦ご飯やカレー、デザートがあまっているクラスはおかわりの行列でにぎわっていました。子どもたちが給食を笑顔でおいしそうに食べている姿は、爽快です。食べることは命をつないでいくことです。とても大切で、

有り難く当たり前のことでありません。世界には食べ物がなく飢えて亡くなっていく子どもたちもいます。食べ物を粗末にせず、植物や動物の命はもちろん、生産・運送・調理など、いろいろなお仕事に関わる人たちに感謝しながら食して欲しいと思います。宇城市では松橋の豊崎にある給食センターの先生方が、作ってくださり運んでくださいます。しかも、無償化されています。とてもありがたいです。

4年生



私は、給食にお世話になって42年以上になるかと思っています。小学生の時は、給食は嫌いでした。肉が嫌い、トマトが嫌い、毎日パンでパンが嫌いでした。牛乳はガラス瓶で、牛乳当番は重くて重くてとんでもありませんでした。正直、給食の時間は嫌でした。でも、学校の先生になってからは、肉は大好き、トマト大好き、給食大好きになりました。先生になったばかりの若い頃は、給食で栄養をとっていたと言っても過言ではありません。一人暮らしでの朝食や夕食は、栄養のバランスが良くなかったです。行政に勤務したときには、給食はありません。弁当などに頼りました。その時、温かい給食のありがたさを感じました。今は学校現場で、当たり前のように給食を食べることが出来ます。「食」は生き物の「命」をいただいていることを意識し、残さず感謝しながら食べて欲しいと思います。給食センターの方々行政の方々、いつもおいしい給食をありがとうございます。

6年生



1年生



3年生



5年生



大盛り2人組

